

1) 著作権保護のための表示

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

2) 研究会基本情報

「アフリカ食文化研究—変貌しつつあるその実像に迫る—」（令和5年度第3回研究会）

日時：令和6年3月23日（土）13:30～17:45、3月24日（日）9:30～12:30

場所：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 稲盛財団記念館 3階「中会議室」

および Zoom

3月23日（土）

13:30～15:30 下山花（日本学術振興会）研究発表「ヤムイモの栽培と利用：キャッサバ栽培の広がるガーナ中部サバンナ州における予備調査の報告」

15:45～17:45 池邊智基（日本学術振興会）研究発表「植民地期セネガルにおける食と農の変容」

3月24日（日）

9:30～11:45 石川博樹（東京外国語大学 AA 研）研究発表「19世紀半ばのエチオピアにおける「インジェラ」」

12:00～12:30 藤本武（富山大学）研究連絡「今年度の報告および来年度の予定」

概要

1) 1日目（3月23日）はまず下山 AA 研共同研究員（日本学術振興会）によるヤムイモの栽培と利用に関してガーナ中部で今年度実施した予備調査の報告がなされ、2) 続いて、池邊 AA 研共同研究員（日本学術振興会）によるセネガルにおける国民食チェブジェンの成立に関する歴史人類学的な報告が行われた。3) 2日目（3月24日）は石川 AA 研所員による19世紀半ばのエチオピアにおけるインジェラについて歴史学的な報告が行われた。いずれの研究発表も活発な議論・意見交換が行われた。4) 最後に藤本 AA 研共同研究員代表より、今年度の報告と来年度の予定に関する説明などがなされた。ハイブリッド形式で2日間にわたって開催したが、今回も20名あまりの参加者があり、全体として大変有意義な研究会であった。